

概日リズムに基づき処方

化粧品原料
で新戦略 抗加齢機能
向上へ 池田物産

研究する学問で、その中心となるのが昼と夜を認識して調子を整えるサーカディアンリズム。体温、ホルモン分泌、糖代謝など内在因子によりリズムが同調して体内時計のリズムを刻むとされ、不眠症の解決策を探る目的を中心に、製薬、食品企業が盛んに研究に取り組んでいる。

池田物産は、ライプサイエンスの最先端の時間生物学（クロノバイオロジー）の研究成果に基づき化粧品原料の供給に乗り出す。提携先のカナダ・ユニペックス社製品を組み合わせ、年代別に適した処方にする。皮膚が概日リズム（サーカディアンリズム）に従い変化する新知見をベースに、エビデンスある複数の原料を同時配合して抗加齢機能を高められる提案活動に取り組む。

池田物産は8日に化粧品メーカーの技術者約100人を集めた技術セミナーを都内で開催。自社方針を示すとともに、ユニペックス社の研究者を招き国内化粧品業界初のサーカディアンリズムに基づき処方を紹介した。国内販売しているユニペックス製十数種の化粧品原料のエビデンスが揃ってきたことを踏まえ進めるもので、細胞増殖が夜に活発になることや皮脂腺分泌が日中高まるこ

となどサーカディアンリズムの最新研究成果と、既製品の機能とを照らし合わせ、新知見が得られたという。池田物産が得意とする日本人の肌にあった処方・技術力と同成果をマッチングさせ、このソフトを新戦略のコアにする。クリームやローションなどスキンケア向けに展開する考え。30、40、50代以上の3年代層に分け、さらに昼夜の皮膚細胞の変化とリズムに合わせた

処方を提案する。実例として30代昼用処方の場合、防御、抗ストレスをキーワードに、抗炎症機能剤「CW」と、異なる働きで肌にハリ・弾力を与える2つの抗加齢素材「ECMプロテクト」M「DIコンプレックス」の組み合わせによるシナジーで、早期老化に対応した高い防御機能を備えた新しい原料価値を提供する。

クロノバイオロジーは、体内時計の仕組みを